

代表者 3A 倍 賞 菜々子

指導者 吉 岡 藤 美

はじめに

鹿角地区には盛大に行われているものから、ひっそりと行われているものまで、たくさんの祭りがある。祭り見物に出かけたり、実際に参加したりという経験をもつ生徒も多いだろう。小・中学生の頃は、地域の祭りに関する行事に参加させられていたという生徒も少なくない。

鹿角の祭りについては、これまでも「かづの学」で研究されてきているが、今回は今まであまり触れられてこなかった裏の面にも焦点を当ててみようと思った。

I テーマ設定の理由

鹿角地区には鹿角市に35、小坂町に10の、合わせて45の神社がある。伝統的な祭りといえば神社の例祭。まず、神社について調べ、それから鹿角地区の神社の例祭の中でも有名な「花輪ばやし」と「毛馬内月山神社祭典」について、祭りを盛り上げるために関係者がどのような取り組みをしているのか、また、どんな課題を抱えているのかを探り、どうしたら祭りを通して鹿角を活性化させることができるのか考えたいと思った。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 全校生徒にアンケート調査
→ アンケート結果を集計・分析
- 3 宮司さんに電話でインタビュー
→ インタビューの結果をまとめる
- 4 これまで調べてわかったことを共有
- 5 花輪ばやし講座
- 6 毛馬内月山神社祭典講座
- 7 わかったことからの考察
～どうしたら祭りを通して鹿角を活性化できるか？

III 調査・研究内容

当初はあまり知られていない祭りに焦点を当てて調査・研究する予定であったが、思うように進めることができず、途中から路線を変更した。

<全校生徒に対するアンケート調査から>

- Q1 あなたの住んでいる地区には、お稲荷さんや八幡様のような神社がありますか？
- Q2 「ある」と答えた方へ。その神社の名前を知っていたら教えてください。
- Q3 「ある」と答えた方へ。その神社には何かお祭りらしきものはありますか？
- Q4 そのお祭りらしきものに参加したことはありますか？

上記のような項目で、全校生徒に対してアンケート調査を行った。集計結果は

- Q1について、「ある」と答えた生徒 58%
- Q3について、「ある」と答えた生徒 51%
- Q4について、「ある」と答えた生徒 76%

このデータを見ると、自分が住んでいる地区に神社があることを半数以上の生徒が知っており、祭りに参加したことがあるという生徒は実に7割以上いることがわかる。これは、おそらく小学生の頃などに、町内か学校ぐるみで参加させられていたためであろう。しかし、高校生ぐらいになると祭りに行くことはあっても参加まではしなくなるらしい。また、あとで講演を聞いてわかったことであるが、花輪ばやしは生徒たちが「アルパスのところのお稲荷さん」と呼んでいる花輪の産土神・幸稲荷神社の祭典の奉納ばやしであった。祭りは知っていても神社との関係に疎い生徒の実態がうかがえる。

<宮司さんに電話でインタビューしてみよう>

グループに分かれて、鹿角地区の神社の宮司さんに電話でインタビューをした。残念ながら話を聞くことのできなかつた宮司さんもいるが、何人かの宮司さんに話を聞くことができた。そこでわかったことは、御祭神がたくさんいる神社もあるが、それは神社を統合（神様だけに、神社を廃することはできない。）した結果であること、そしてそうしなければならない一番大きな理由は、神職の世界も人手不足で、神主のなり手がいないということであった。宮司さんも複数の神社の宮司を兼ねていたりして、かなり深刻な状況である。氏子の数の減少も神社の維持が困難な一因である。

<花輪ばやし講座について>

去る11月21日、花輪ばやし若者頭協議会の役員の方々をお招きして、花輪ばやしについての講演をしていただいた。「花輪ばやし」の名前は知っていても見に行ったことがないという生徒もいたりして、祭典の全容をDVDで見ることができたのは収穫であった。

花輪ばやしは、土地の守り神「産土神」として幸稻荷神社において奉納される祭礼ばやしである。平成26年に花輪祭の屋台行事として国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には「山鉦・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録された。若者会は祭り当日まで準備や寄付集めなどを行い、当日は屋台の運行の指示、太鼓、鉦の演奏、他の町内との折衝等、祭りを運営する上で「核」になっている。若者なしには成り立たない祭りなのである。

しかし、華やかな祭りの裏に課題も山積みである。①人口減少、少子高齢化の進展により、祭りの担い手の確保が難しくなっている点、②人口減少、少子高齢化の影響で各家々からの寄付も減少し、財源の確保が難しくなっている点、③花輪ばやしは祭礼ばやしのため、日程を変更して行うことができず、平日の開催にあたった年は集客方法に苦慮するという点が大きな課題となっている。対策として後継者育成活動に力を入れており、ユネスコ登録効果や鹿角花輪駅前広場の改修工事などにも期待を寄せているということであった。また今年の夏は、大館市の大館神明社祭典の関係者が花輪ばやしに参加し、交流を深めている。



(花輪ばやし講座の様子)

<毛馬内月山神社祭典講座について>

11月28日、毛馬内まつりの会副会長の馬渕大三氏をお招きして、毛馬内月山神社の祭典についての講演をしていただいた。

月山神社は、家内安全・学業成就・交通安全・商売繁盛などを祈願する神社であるが、もとは西暦807年に毛馬内で一番高い山である月山に征夷大将軍坂上田村麻呂が蝦夷征伐の戦勝祈願のた

めに創建したといわれている。神社では毎年7月12～13日に例大祭が行われ、樽みこし巡行、上町・中町・下町の屋台、毛馬内囃子、川原太神楽などが行われる。神事は神社のほうで行われるが、まつりの会では主に樽みこしの巡行や屋台、毛馬内こもせ通りの露店の管理を行っている。露店は秋田県外商組合加盟者から約50店出店されているのだそうだ。本来は11日の渡御で始まっていたが、人手不足のため現在は取りやめになっている。かつては花輪ばやしと隔年で行われていた時代もあったという鹿角を代表する祭りだが、現在は少子高齢化による氏子の減少と祭典に対する理解力の問題（かつては毛馬内の人間＝月山神社の氏子、現在は毛馬内出身ではない＝月山神社の氏子ではない）から、祭りの維持存続が大きな課題となっている。



(毛馬内月山神社祭典講座の様子)

IV おわりに

調べてみてわかったことは、神社と鹿角を代表する2つの祭りに共通する大きな課題は「人手不足」と「資金不足」だということである。これらは少子高齢化による人口減少に起因しており、祭りを続けていく上で深刻な問題になっている。また、同じ鹿角地区にいながら自分が居住する地区以外の祭りはよくわからないという生徒が本校では多かった。これらの実態から、祭りを通して鹿角を活性化させるにはどうしたらいいか、ということをも自分たちなりに考えてみたところ、若者の一員として自分たちも積極的に祭りに参加することで協力していく必要があるのではないかという結論に達した。そして、小・中学校とは違って高校にはいろいろな地区から生徒が集まってきているという点を活かし交流することで、お互いの居住している地区の祭りをもっと多くの人に知ってもらうように働きかける。資金に関しては直接的に協力できることはないが、見物客が多く集まることで生まれる経済効果には協力できることがあるかもしれない。「祭り」という華やかでエネルギーギッシュな行事は、鹿角の活性化のためには絶やしてはならないことを実感した。